

2025 年 8 月 8 日

免疫チェックポイント阻害剤および標準治療が無効であった食道がんに対する免疫細胞療法の臨床評価に関する論文が学術誌『Anticancer Research』に掲載されました。

医療法人社団湊志会 瀬田クリニック東京では、免疫チェックポイント阻害剤 (ICI) および標準治療が無効であった食道がんに対して活性化 T リンパ球療法 (アルファ・ベータ T (以下、 $\alpha\beta$ T) 細胞療法) を行い、病状が改善した症例についてまとめた症例報告論文 (*1) が、学術誌『Anticancer Research』に掲載されましたのでお知らせいたします。

現在、我々は、ICI に無効となったがん患者さんを対象に、 $\alpha\beta$ T 細胞療法の安全性および有効性の検討を行っています。本報告では、化学放射線療法、化学療法、ICI (ニボルマブ) による治療後、効果が得られなかった食道がんの患者さんに対し、ニボルマブ終了後 3 か月で $\alpha\beta$ T 細胞療法を開始した症例を紹介しています。

[今回の報告内容]

背景:

- ICI が無効と判断された患者に対する治療法は限られている。
- 先行研究では、ICI の効果を高めることを目的に、 $\alpha\beta$ T 細胞療法との併用療法における安全性試験を実施し、特記すべき免疫関連の有害事象 (irAE) は認められなかった (UMIN: 000028756) (*2)。
- ICI および抗癌剤治療が無効であった腎盂がんに対して $\alpha\beta$ T 細胞療法を実施し、病状の改善が認められた症例を報告している (癌と化学療法、第 52 巻 第 5 号 2025 年 5 月)。この症例では ICI が無効と判断された後も一定濃度の薬剤が血中に残存していた可能性があり、 $\alpha\beta$ T 細胞療法との併用療法と同様の効果が得られた可能性がある。

症例概要:

60 歳代女性、食道がん。

化学放射線療法、化学療法、ニボルマブによる治療を受けたが効果は得られず、肝転移が進行した。標準治療終了後に当院を紹介され、ニボルマブの最終投与から約 3 か月後に $\alpha\beta$ T 細胞療法を 6 回実施したところ、CT 検査にて肝転移の軽度な縮小を確認した。

評価:

- 特記すべき免疫関連の有害事象 (irAE) は認められなかった。
- フローサイトメリーで $CD3^+$ 、 $CD4^+$ 、 $CD8^+$ 、 $\alpha\beta$ T 細胞、 $\gamma\delta$ T 細胞の増加を確認した。
- MUSCAT アッセイで DDX53 に対する自己抗体の上昇を確認した。

考察:

- ICI が血中に残存していたことにより、免疫細胞療法と ICI の機能的併用効果の可能性が考えられた。
- ICI が無効であった要因の一つとして、エフェクター T 細胞の不足が考えられた。

- α β T 細胞療法による T 細胞の増加が ICI の効果を引き出すことに寄与した可能性がある。
DDX53 は食道がん・胃がん・肺がんで発現が高く、免疫応答の標的となり得る。
- MUSCAT アッセイは、がんに対する免疫応答の指標として有用であると考えられた。

本症例では有害事象は認められず、治療後に肝転移の縮小、T 細胞 (CD3⁺、CD4⁺、CD8⁺など) の増加、腫瘍関連抗原 DDX53 に対する自己抗体の上昇が確認されました。ICI 投与後も一定濃度の薬剤が血中に残存していたと考えられ、ICI と免疫細胞療法の併用効果が得られた可能性があります。ICI が無効と判断された場合でも、免疫細胞療法の併用により治療効果が期待できる可能性があります。

現在、瀬田クリニックグループでは、ICI 治療後の患者さんを対象に、免疫細胞療法 (α β T 細胞療法) の忍容性 (安全性) および有効性を確認する臨床研究 (*3) を実施しています。

詳細は下記よりご覧いただけます。

<https://www.j-immunother.com/research01>

瀬田クリニックグループは今後も、臨床現場で得た最新の知見や研究結果等を速やかに治療に応用するとともに、研究成果に係る情報発信を継続することで、がん免疫細胞治療の発展に貢献してまいります。

以上

本件に関するお問い合わせ：

医療法人社団 滉志会 法人本部

東京都千代田区神田駿河台 2-1-45 ニュー駿河台 ビル 3F

TEL: 03-5860-2393

URL: <http://www.j-immunother.com/>

Email: info@j-immunother.com

(*1) Clinical Evaluation of Immune Cell Therapy in Esophageal Cancer Resistant to Immunochemotherapy

Anticancer Research August 2025, 45 (8) 3553-3559; DOI: <https://doi.org/10.21873/anticancerres.17716>

(*2) 免疫細胞療法と免疫チェックポイント阻害薬併用の安全性に関する探索的臨床研究 (UMIN000028756)

(*3) 免疫チェックポイント阻害薬不応例に対する α β T 細胞療法の忍容性を見る試験 (jRCTc030220287)

【 瀬田クリニックグループについて 】

1999年3月、免疫細胞治療の専門医療機関として「瀬田クリニック」(現：瀬田クリニック東京(東京都千代田区))を開院以来、瀬田クリニックグループ全体で24,000名を超える患者さんに治療を提供しています(2025年5月現在)。2009年に設置した臨床研究センター(現：臨床研究・治験センター)では、開院以来の治療実績から抽出した臨床データの解析に加え、大学病院、地域中核医療機関等との共同臨床研究を行い、Evidenceの強化、治療効果の更なる向上に取り組んでいます。